



19万人の ひろば

八千代市イメージキャラクター
「やっち」



4月1日、学校給食センター西八千代調理場がオープンしました。1万1,000食の給食提供と食育の拠点としての機能を持ち合わせています。

みんなで作って「いただきます」

勝田台公民館の春休み子ども料理教室



▲煮立った鍋に卵を入れて、エビとトマトのスープのできあがり

3月23日、勝田台公民館で春休み子ども料理教室が行われ、小学3年生～6年生の20人が参加しました。講師は八千代市栄養士会のメンバー7人で、肉巻きおにぎりレタス包み、エビとトマトのスープ、ティラミスを作りました。

まず、包丁の持ち方を教わった子どもたちは、真剣なまなざしでウインナーや

野菜をカット。フライパンや鍋で火を使った調理にも挑戦しました。普段から料理をしている子ども、初めての子ども「今日のレシピで家族に作ってあげたい」とこり。春休みの良い経験となりました。

公民館では春から新しい講座が始まります(今号4・5ページに掲載)。皆さんも「新しいこと」に挑戦しませんか。

連覇を目指しがんばります

八千代ポニットFC



▲チーム名「ポニット」はポルトガル語で“美しい人”

八千代ポニットFCは市内を拠点に活動する女性サッカーチームです。子どもたちをサッカー教室に通わせていたお母さんたちが自分たちもプレーしたいと、28年ほど前に結成。24歳から57歳までの28人が個々のレベルに合わせて週一回の練習を行っています。チームの強味は、チームワーク。「みんなが一つになったからこそ結果に結びついた」と代表の高山明美さん。八千代ポニットFCは、半数以上がサッカー未経験者にもかかわらず、24年度の千葉県レディースサッカーリーグ・ミセスの部でみごと優勝を果たしました。

今年度もシーズンが始まり、リーグ戦連覇と全国大会出場を目指して挑戦は続きます。

春の味に舌鼓

阿蘇公民館の“道草を食おう”

3月23日、阿蘇公民館で行われた「春の野の味ウォッチング・道草を食おう」に8人が参加。自然観察員に食べられる草花などを教わりながら、ほたるの里周辺で1時間半ほど野草採取を行いました。

公民館に戻ってからは、摘んできたヨモギやツクシ、ユキノシタなど8種類の野草を天ぷらやあえ物などに調理。「ほろ苦くて最高ですね」と揚げたての春の味に舌鼓を打ちました。



▲「野草を見つけておいしそうと思ったら一人前ですよ」と自然観察員の森繁さん(左)



リサイクル・ガイド

消費生活センター 画485-0559

この欄については、消費生活センターへ。土曜・日曜日、祝日を除く午前8時30分～午後5時まで(午後4時～5時は画483-1151へ)。交渉は当事者間で行い、結果は必ず同センターへ報告してください。

- あげます ▶寝具セット(マットレス・敷きふとん)
- ▶GOO.N製オムツ(テープ付き)/Sサイズ1袋

- ▶洋服ダンス/180cm×85cm×60cm ▶ラテラル・サイ・トレーナー(健康器具)

- ゆずります・有料 ▶マンション向け小型物置/110cm×93cm×57.5cm ▶譜面台付きキーボード/横95cmと譜面台 ▶デロンギ製電気暖房器 ▶ベビーベッド

- ゆずって・有料 ▶学ラン・黒/170～175cm ▶電動ウォーキング器具(折り畳み式) ▶電気冷凍庫 ▶電子ピアノ

やちよ川柳 八千代川柳連盟選

PM2.5午後のことかと聞くオカン 村 上 佐藤 昌平
 マニユアル通り生きて指紋が残らない 八千代台北 林 はな
 レイを掛けハワイの気分フラダンス 村上団地 阿部ちえこ
 難病にIPSが希望の灯 勝田台 梶田きみ子
 少しづつ嫁が家風をリードする 八千代台北 皆川 治
 親切が土足で入るお節介 八千代台北 中川記代子
 梨園の子きっちり繋ぐ芸の道 八千代台北 新木さち子
 ほんの僅かいいこと見つけ今日を生き 上高野 神津真智子

八千代歌壇 八千代市短歌会選

早春の光を踏みて菜種まく土の香染みる手はわが力
 (大和 田) 有里 侑起
 水雨打つマラソンランナー指さしてこれも行だと言え人
 あり (大和田新田) 丸本八津男
 病み臥していますとも師は春を待つ歌詠みまさむ心地よき
 日は (八千代台西) 元村 泰介
 霜柱さくさくと踏み青空に濯ぎもの干すいまは手馴れて
 (大和田新田) 児玉 将孝
 遺されし電気行火に寝ねみたる夜はほっこりと母に包まる
 (八千代台西) 吉田 早苗
 匂いよき花木好みし姑に供ふ猫柳の枝・万作の花
 (村 上) 綱島みち子
 参道に思わず止まるリズムよく寄ってけ買ってけ飴切る音
 に (大和 田) 坂井 ワカ
 蠟梅の香りいずくと歩を止むる大寒の土手春信ひそか
 (萱 田 町) 吉田 仁子

選評 一首目、春という語は草木の芽が「張る」、田畑の開墾の「墾る」、気候の「晴る」などを語源とする。古典歌人たちのうたにはこの語源を巧みに消化したと言ってよい歌がある。この一首も弛みのない言葉運びで、力強い結句が無理なく感受される。二首目、マラソン大会の続く季節、寒風の中、氷雨の中、ひたすら走り続ける姿は、見ている人達にもさまざまな感動を与える。「行」だという気持に共感している作者。三首目、病む師への想いの優しさが伝わる。

広報雑誌記帳から 阿蘇公民館の講座「道草を食おう」。今年も例年よりも草木の成長が早いとのこと。今年もくさんの野草をみんなで持ち帰り、味わいました。初めて口にすると野草の前に「本当においしいのかな」と半信半疑でしたが、野草のてんぷらやツクシの砂糖漬けをこっそり食べて、思いがけないおいしさに驚きました。また、桜の開花も記録的な早さだったため、表紙の桜まつりの取材の前は、「どうかあと一週間もって」と祈るような思いで過ごしました。数年前に取材に行ったときは、開花が遅すぎて記事にはなりませんでしたが、10周年の節目となる今年は、見事に桜が咲き誇りました。